

子ども会（学習会）だより

MY SKY No. 3



1997年5月6日火曜日発行（毎週火曜日子まぐれ発行）

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

学習会の開講式^{かいこうしき}が、全学年合同で、昨日5時から板野町総合センターにて行われました。残念ながら全員参加というわけにはいきませんでした^{ういうい}が、それでも初々しい一年生を含めて、新鮮^{しんせん}なひとときをおくることができました。これからもこのひとときを忘れることなく、大切にこの一年間それぞれの胸^{いた}に抱き続けましょう！

さて、ここで今年の方針^{ほうしん だいだいてき こうひょう}を大々的に公表しておくことにします。

まず、『① 時間を守る』。今までズルズルとだらしなく始まり、だらしなく終わることの多かった悪い^{たいしつ}体質^{ねもと}を、根元^{ねもと}から断ち切^{たき}ろうと思うのです。本当なら人間的に成長しなければいけない場なのに、これではねえ……。こんな悪い習慣^{くせん}を学習会でつけてしまうのでは、本人自身にも悪いし、家族の方にも申し訳^{もう わけ}ありません。これはなおしていきますので、みなさんも注意して！！

次に、『② 勉強をする』。当たり前^{あたりまえ}のことなんですが、なかなかきちんと集中してできていなかったように思うのです。部落問題^{ていど}がある程度理解できていれば、なぜ勉強しなければいけないのかわかるはずなのですが……。十分に部落問題学習^{がね}が根づいてないんでしょうね。並行^{へいこう}して部落問題学習も続けますが、勉強する習慣^{くせん}も、徹底的^{てっていてき}につけていきたいと思います。頑張ろう！！

最後に、『③ 学習会本来^{ほんらい}の意義^{いぎ}を確かにする』。これがなければ、学習会なんてただの塾^{かいほう}です（タダじゃないよ！）。これでは、部落解放^{かいほう}なんて夢のまた夢ですね。なぜ、部落差別^{そんざい}がいまだに存在^{そんざい}するのか？それによって、いったいどんな不具合^{ふぐあい}が生^{しょう}じているのか？そしてなぜ、全員が考え取^くり組まなければいけないのか？これらのことにしっかり目を向けられないと、部落差別^{そんざい}どころか、いじめすらもなくすることはできません。生徒^{せいと}だけでなく、先生^{いっしょ}方も一緒に学^{まな}んでいきましょうね！老若男女^{ろうにやくなんによと}を問わず、いつでも私たちに話^わかけてきてください！

ということで、開講式に参加^としてた人も、できなかった人も、今年一年頑張ろう！！



☆ 今年もはじまった！学習会開講式！（5月6日17:20～；板野町総合センター）

さて、学習会の開講式に先がけて、全クラスで学習会についての学習を取り組んだと思いますが、まだなかなか心の中に重たいものを引きずっている人も多いようで、次のような生活ノートを綴ってきた仲間もいたようです。

部落問題学習を今日授業でやったけど、どうしてもこういう問題になると黙ってしまいます。やっぱりこの問題、かなり難しいと思います。

私は小学生の時から学習会に行くことがイヤでした。「どうして私が学習会に行かなくてはならないのか」と思っていました。学習会に行っていない子がうらやましくも思えました。

私たちが部落問題に取り組んでいったのが、4年生の時でした。4年生ではまず、周りの差別、身近な差別をなくしていくことを努力しました。5年生では、学習会に行っている子と行っていない子を分け、勉強、レクリエーション、部落問題などについて、お互いに話し合いました。でもその時くらいから私は、自分にかかってくる学習会がイヤになってきました。でもその時ははっきり言って、行かないと先生や友達がうるさいから仕方なく行っていました。

私は今も、学習会に行っていることが言えません。やっぱり人目を気にします。やっぱり話し合いをしても、私みたいに学習会に行っていることを言えない子もいると思います。だから、今日の話し合いも私は手が挙げられませんでした。これから部落問題学習をしても、当分手を挙げることはできないかもしれないと思いました。私は部落問題から逃げています。でも学習会に行っていない人も、自分がもし行くことになったら、はっきり言ってとても怖いと思います。「こんなことで」と思うかもしれませんが、私は差別というのが恐いです。

この子は、自分のことを「逃げています」と表現しましたが、私には決してそうは思えません。だって、日にも日にも一生懸命この問題について考えてるんだもん！この問題に対して、な～んにも考えていない人だっているのに、一生懸命考えてるんだもん！みなさん、すごいと思いませんか？

確かに今はちょっと苦しそうで、それが自分で自分の首を絞めているものなのか、誰かに首を絞められているものなのか、それともその両方なのかはわかりませんが、とにかく自分の中で闘ってるところがすごいと思います。こんな思いをさせないよう、学習会の中身も考えなおさねばいけないと思います。悪いところは改め、足りないところや良いところは伸ばし、できるだけ多くのみんなが気持ちよく参加できるような学習会にしたいと思

います。

でも、これは学習会だけの問題ではなくて、実はみなさんの周りにもその原因があるの
 かもしれません。周りが、学習会のことを言えない雰囲気を作っていたり、学習会に行けな
 い雰囲気を作っているのかもしれません。もしそうなら、これは大問題です。

この春卒業した板中生が進学していった先の高校の先生が、4月以降、本校に来校して
 います。板中卒業生のことを知るために、聞きに来ているのです。本校が、部落問題学習
 や全体学習に取り組んでいることを知ってか、そのことについて聞いてくることがあるの
 ですが、「部落出身であることや、学習会に行っていることを堂々と発表する子もいる」
 ということを告げると、とたんにその先生の顔に、ちびまるこちゃんの顔のような陰をさ
 すんです。そして、「高校でも自分の立場を言うことはあるんでしょうか……」と、えら
 く深刻そうに問いかけてくれるんです。オイオイって感じです。確かに真剣に受け止めな
 ければいけないとは思いますが、暗くなることではないと思うんです。逆に「そんな暗げ
 ~な顔してるから、地区の子はしんどくなるんです。やめてください！」とでも言ってや
 るうかとも思いましたが、そこは優しい私。こう言ってあげました。

「もし自分の立場を暗げ~に告げる生徒がいたら、こう言ってあげてください。

『実は……先生は、部落外の人間なんです』ってね」

差別された事実も確かに大切ですが、もっと大切なのは、「じゃあ、その差別をどうしな
 ければいけないのか？どうしたいのか？」ということだと思うんです。これをしっかり持
 っていれば、暗くなる必要はないと思うんですね。これがしっかりしていないから、暗げ
 ~になってしまうんだと思うんです。

世の中には、部落差別をはじめとする様々な差別やおかしなことがあります。民主国家
 日本と言われながら、全然民主的でないことが、身の周りにたくさんあります。部落内外
 を問わず、世の中の人すべてが、それらの差別をなくそうと日々考え生活していれば、こ
 の問題で悩む人もなくなっていくと思うんです。

実はそれを確かなものにしていくのが、学習会なんだと思うんです。学習会って、部落
 差別をなくしていく砦のようなものであり、部落解放を実現していく本部基地のようなも
 のだと思うんです。よーいドンで世の中のみんなが「がんばるぞー」と言えればいいので
 すが、そういうわけにはいきません。だから、差別を一番身近に感じる者が、差別をなく
 す声を元気にあげていかなければいけないと思うんです。

差別されることは、決して恥ずかしいことではありません。でも、差別を放っておくこ

とは恥ずかしいことです。今年も学習会，部落問題学習，ともに頑張りましょう！！



まだまだ校内で，いろんな物が紛失しています。おか

しなことです。もし誰かがとっているとすれば，許せないことです。なかでも最近多いのは，靴類のようです。下駄箱付近や廊下に壁がないため，休みの日でも自由に出入りできてしまうのが，仇となっているようです。

確かに，板中のようなデザインの建て方をしている中学校は県内でも珍しく，開けているといえば開けているのですが，出入り自由ということを考えれば，不用心ともいえるようです。

こういった状況を変えるときに必要なのが，「運動」なんです。ちなみに，「スポーツ」というような意味じゃありませんよ。辞書には「目的を果たすための行動」となっています。みなさんが知っているところでは，「洗染一揆」がこの「運動」の意味と似ているでしょうか。小学校の時に習いましたよね。おかしいと思えることを，暴れたり暴力に訴えるのではなく，多くの人々が様々な知恵を絞り，団結してその要求を願い出て，見事思いをかなえました。残念な仲間の死や，不当な弾圧もありましたが，それに屈することなく，最後まで正しいことを貫き通しました。本当に素晴らしい運動です。こんな運動ができれば，もしかすると板中の廊下にも壁ができるかもしれません。

まあ何はともあれ，今日明日にできるわけではないので，とりあえずはもう盗まぬよう，根気よく訴えていくことにしましょう。

あっ！来週の学習会保護者会，みなさんよろしくお願いま～す！



- 5月6日(火) 学習会全学年合同開講式(17:00～19:00；板野町総合センター)
- 9日(金) 遠足(1年生・3年生：レオマワールド，2年生；鷺羽山ハイランド)
- 12日(月) 第1学年学習会保護者会(19:30～；板野中学校会議室)
- 14日(水) 第2学年学習会保護者会(19:30～；板野中学校会議室)
- 15日(木) 1年A組学年全体学習(第1学年第1回；資料「学習会の仲間に」)
- 16日(金) 第3学年学習会保護者会(19:30～；板野中学校会議室)
- 23日(金) 板野中学校体育祭



☆ 劇団はぐるま座音楽詩劇『夏の約束』のチケットは吉成まで！

前号，劇団はぐるま座の『夏の約束』徳島公演を紹介しましたが，「ものがたりの簡単なあらすじを」という注文を受けましたので，下に少しだけ抜粋してみます。ご覧になっ

てください。

なお、前売券については全会場共通となっていて、一般3000円、小中高生1000円となっているので、御入り用の方は吉成までお問い合わせください。

5月21日(水)18:30	池田町総合体育館メインアリーナ
22日(木)18:30	山川町アムニティーセンター
23日(金)19:00	吉野町スポーツセンター
25日(日)14:00	脇町小学校体育館
28日(水)18:30	鴨島町中央公民館
29日(木)18:30	阿南市市民会館
30日(金)18:30	徳島市郷土文化会館
6月1日(日)14:00	牟岐町海の総合文化センター
3日(火)18:30	石井町中央公民館



◀ 磯野先生 (入江光司)

◀ 高見沢熔子 (横山佳奈)



▲ 帰ってきた兵士たち

止された広島で、日本で最初の原水爆禁止・平和集会がひらかれた。それは磯野の生き方を大きくかえるものだった。

一九五〇年八月六日、あらゆる集りが禁止された広島で、

「二度と戦争の惨害をくりかえさせぬために生きよう。」と、死者たちに誓った。

だが戦後五年もたないうちに、日本を占領したアメリカは、日本を基地にして朝鮮で戦争を始めた。

一九四五年八月六日、広島の人々の受けたいえぬ惨害に熔子は胸を震わせる。

磯野は、自らの戦争体験を語り始める。

南の島でたくさんの友人を失った磯野は、

ものがたり

花火大会の夜、高校生高見沢熔子は、磯野先生から突然問いかけられた。「君は、ゲンシユクという言葉を知っているかね。」夏休みの終わり近く、磯野の家を訪ねた熔子に先生は、峠三吉の『原爆詩集』を贈る。

初めて接する地の底からの叫び。

ちちをかえせ ははをかえせ

としよりをかえせ こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ